

プラス要因・マイナス要因を考慮した観光計画評価モデルに関する研究 A Study on Tourism Plan Evaluation Model Considering Positive and Negative Factors

佐々木 淳†
Jun Sasaki

1. はじめに

一般に、観光旅行計画を作成する場合、嗜好や目的などのプラス要因と、移動時間やコストなどのマイナス要因の両方が関わってくる。しかし、それらの要因を考慮して旅行者が真に満足する旅行計画を作成することは難しい。筆者はこれまで観光旅行計画を作成する際の様々な要因について分析し、プラス要因とマイナス要因を考慮した旅行計画作成手法について提案を行った[1]。本稿では、まず観光旅行を計画する際の流れを示し、次に各要因の影響の大きさを把握するために実施したアンケート結果について紹介する。そして、異なる地域の大学生が作成した観光旅行計画とその評価実験結果に基づき、観光旅行における体験内容、移動時間、滞在時間、コストなどの影響の大きさや関連性について考察する。

2. 旅行計画作成の流れ

図 1 に一般的な観光旅行計画を作成する際の流れを示す。前提条件として、観光旅行先(大まかな目的地)と、旅行形態(誰といつ行くか)、交通手段がある。次に、観光旅行先またはその経路における目的(何をするか)を考える。これらは個人の趣味・嗜好や特性に応じたプラス要因である。同時に、予算や旅行時期(季節、気候条件)、旅行先の混雑度や運動量、移動時間などのマイナス要因を考慮し、経済的・体力的に無理・無駄のない旅行計画を作成する。これらの要因は複雑にからみあっているが、どのような場合にどの要因が大きく効くのか明らかにすることが本研究の目的である。そこで筆者は、異なる地域の住民を対象に、観光旅行計画作成に関するアンケート調査を実施した。

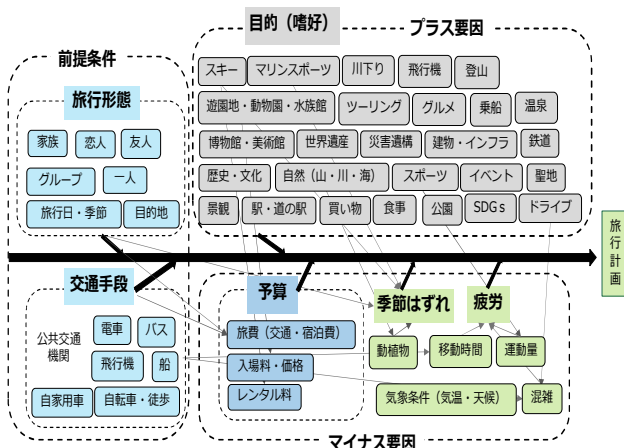


図 1 旅行計画作成の流れ

† 大和大学 情報学部,
Faculty of Informatics, Yamato University

3. アンケート調査の概要

3.1 アンケート調査の方法

観光旅行計画作成に関するアンケート調査を実施する際、具体的な質問をするために、観光旅行先を岩手県北部(八幡平市～二戸市など)と三陸沿岸部(久慈市～陸前高田市など)への旅行に限定した。この地域は観光旅行者が少なく、本要因分析の結果を旅行者増の政策に反映させるねらいも含んでいる。また、アンケートの対象者は、回答者の属性による違いを比較するため、全国(グループA)、岩手県在住の女子大学生(グループB)、岩手県在住の一般人(グループC)とした。表1にアンケート対象グループの特性を示す。

表 1 アンケート対象グループの特性

	グループA	グループB	グループC
実施日(2023年)	1月10日	1月23日	1月14日～16日
居住地	全国	岩手県内	岩手県内
年齢層	20～80代	20代	30～50代
回答者数	男688名, 女31名, 計1,000名	女27名	男9名, 女1名, 計10名
調査ツール	Freeasy[2]	Google Forms	Google Forms

3.2 アンケート調査結果

(1) 前提条件(旅行形態、旅行先、時期)と目的(嗜好)

グループAは家族旅行(37.5%)と2人旅(31.7%)、グループBは3人以上のグループ旅行(48.1%)が多かった。グループCは一人旅(30%)と家族旅行(30%)が同程度であった。宿泊数については、グループAは2泊以上、グループB、Cは1泊2日が多い傾向にあった。旅行先については、いずれのグループも岩手県北部(岩泉町龍泉洞～久慈市)と三陸中部(宮古市浄土ヶ浜)、旅行時期は春と夏の希望が多かった。交通手段は、グループAは公共交通機関69%で最も多く、グループBは車と公共交通機関が約半々、グループCは車が90%であった。旅行目的(嗜好)は、いずれのグループも体験(グルメなど)や娯楽(公園など)が人気であった。

(2) マイナス要因

予算については「少し気にする」がグループAでは37%、グループBでは48%、グループCでは「どちらとも言えない」が60%と最も多かった。旅行の季節(動植物・旬の食材)については「少し気にする」がグループAでは48%、グループBでは37%、グループCでは「どちらとも言えない」が40%と最も多かった。移動時間と疲労については、グループAでは「少し気にする」が35%程度、グループB、Cでは「あまり気にしない」が40%と最も多かった。

アンケートの結果からはどのマイナス要因も旅行計画作成に決定的な影響を与えるほど大きな要因とならないことがわかった。そこで、具体的な旅行計画を複数作成し、その旅行計画の評価を行うことで種々の条件下における各要因の大きさを推定することとした。

4. 旅行計画作成と評価実験

4.1 旅行計画の作成

旅行計画については、異なる地域（岩手県と大阪周辺）の2つの大学生を対象に3~4名からなる班で1つの計画を作成した。旅行計画を作成する対象エリアはそれぞれの大学生がイメージしやすい居住地近郊~中距離の3つのケースとした。ケース1は表1のグループBの学生（岩手県女子学生）が、ケース2、3は大和大学情報学部1年生（大阪周辺）の学生が作成した。各班は大まかに与えられた旅行先に対し、出発地と帰着地は同じとし、図1に提示した流れに沿って実現可能な旅行計画を作成した。

4.2 旅行計画の評価

学生が作成した旅行計画について、学生による発表と評価を行った。いずれのケースも8つの旅行計画を作成し、5段階評価（5:とても良い、4:良い、3:普通、2:あまり良くない、1:良くない）を行った。評価結果を表2に示す。

いずれのケースも発表の評価と旅行計画の評価には正の相関が認められ、良い発表ほど旅行計画の評価も高い傾向にある。それぞれの旅行計画について、総移動時間(M)、観光地の総滞在時間(S)、体験内容に応じたポイント（以下、体験P）の合計、1人あたりのコスト(C)を求めた。体験Pについては、数値化した文献が見当たらないため、文献[3][4]を参考に、新奇性、自然体感、非日常性などの観点から著者の感覚で仮に表3の通りに設定した。

表2 旅行計画の評価結果

		ケース1	ケース2	ケース3
旅行対象地域 (日帰り~2泊3日の8つの旅行計画を作成)		岩手県中央部~岩手県北部・三陸	大阪周辺~近畿・関西地方	大阪周辺~北陸・中部地方
評価者数		27	28~29	25~26
5段階 評点の 平均	a. 旅行計画	4.43	3.98	3.98
	b. 発表	4.52	4.07	3.84
	a, b 相関係数	0.62	0.93	0.88
総移動時間 M(平均)		4.74H	4.15H	10.60H
観光地の総滞在 時間S(平均)		6.20H	8.43H	9.38H
総体験P(平均)		14.00	7.88	12.13
コストC(平均)		26,269円	15,980円	48,061円
aとの 相関係 数	S	0.89	0.01	0.70
	体験 P/M	0.24	0.83	0.77
	体験 P/C	-0.02	0.62	0.50

表3 体験内容に応じて設定したポイント

旅行計画にあった体験内容	体験P
スキー (1日)	7
スキー (半日)	6
シーカヤック・ラフティング・ダイビング・スノーボード	5
登山・鍾乳洞探検	4
温泉・グルメ・乗船・博物館・遊園地・美術館・映画村・洞窟・ハイキング	3
展望台・ケーブルカー・農園・宿泊・聖地訪問・制作体験・城巡り・吊り橋歩き・トロッコ・餌付け・琥珀発掘・お座敷列車	2
食事・カフェ・買物・自然散策・学習・神社・寺巡り・軽運動・夕日鑑賞・街歩き・ドライブ・滝見・景観・卓球・買物	1

4.3 考察

ケース1については、体験Pが大きく、観光地の総滞在時間Sと旅行計画の評点(a)と正の相関がみられた。ケース2については、P/M, P/Cとaと正の相関がみられた。ケース3については、M, S, Cとも大きく、S, P/Mとaとは中程度の正の相関がみられた。これらのことから、岩手県の大学生は、観光地での滞在時間と体験内容を重視し、大阪周辺の学生は、移動時間とコストに見合う体験、すなわち、コストパフォーマンスとタイムパフォーマンスを考慮した旅行計画を作成する傾向がみられた。

5. おわりに

本稿では、まず全国と岩手県の人を対象に、観光旅行計画作成におけるプラス要因・マイナス要因に関連するアンケート調査を行った。次に、岩手県と大阪周辺の大学生を対象に近隣地域への旅行計画の作成と評価実験を行った。その結果、岩手県の学生の場合は、移動時間・コストを気にせず滞在時間が長い旅行が好まれ、大阪周辺の学生の場合は、移動時間、コストに見合う価値のある旅行が好まれる傾向にあることがわかった。この結果は、岩手県民は全国の人と比べて移動時間は気にしない傾向があるという前述のアンケート結果と一致している。したがって、満足度の高い観光旅行計画を作成する場合は、旅行者の県民性や旅行対象エリアの特性を考慮する必要がある。今回の旅行計画の作成と評価者は岩手県と大阪周辺の大学生に限られていたので、今後、様々な地域の中・高齢者を対象に観光旅行計画の作成と評価も行い、より汎用的な観光計画評価モデルを構築する必要がある。

本研究には科研費19K12582の助成をいただきました。

参考文献

- [1] 佐々木淳, “プラス要因・マイナス要因を考慮した旅行計画作成手法”, 電子情報通信学会総合大会 (2023.3).
- [2] Freeasy: <https://freeasy24.research-plus.net/>
- [3] 林幸史, 藤原武弘, “観光地での経験評価が旅行満足に与える影響: 観光動機と旅行経験の観点から”, 関西学院大学社会学部紀要, No.114, P.199-212 (2012).
- [4] 海老澤昭郎, “観光における非(異)日常と日常のボーダレス化”, 長崎国際大学論叢, No.1, P.63-70 (2001).